

## 釜蓋城跡

釜蓋城は、戦国時代（1467–1538）の武将で有馬藩に属していた千々石大和守直員（ちぢわやまのかみなおかず）が1569年に標高154メートルの丘の上に築いた山城でした。1577年、対立していた地域の軍勢がこの城を攻撃しました。千々石は勇敢に抗戦しましたが、有馬氏の援軍が間に合わず、家臣とともに自害しました。

現在この場所にある建物は1987年に建てられました。城の基礎や城へと続く階段の石の一部は釜蓋城のものですが、この建物のつくり自体はもとの城とは全く異なります。

千々石大和守直員は千々石清左衛門紀員（せいざえものりかず）の父親でした。「千々石ミゲル」としてよく知られている清左衛門紀員は、1582年にヨーロッパへと渡ってローマ教皇に謁見した4人の天正遣欧使節の1人でした。長い間、ミゲルは後年棄教したと考えられてきました。しかし、近年ミゲルの墓でロザリオが発見され、この解釈が誤りである可能性が浮上しています。